

研究課題名	理学療法及びリハビリテーションが心臓血管疾患に対し身体機能ならび社会・生活環境へ及ぼす影響について
実施責任者	リハビリテーション部 技師 恒川裕気
研究の概要	<p>心臓病の治療で入院した後は、安静や合併症による体力低下や筋肉量の減少を予防することが重要となる。そのため、日本循環器学会ガイドラインに基づいて、早期からリハビリテーションを実施することが推奨されている。具体的には、十分なリスク管理のもと、出来るだけ早く身体を起こして座位時間を確保して歩行へとつなげる。当院でも早期リハビリテーションに取り組んでおり、ガイドラインに準じて早期からの歩行開始を試みている。</p> <p>このような取り組みを通じて体力維持を目指しているが、理学療法の効果や、その効果に影響を与える要因について検討することでより効果的なリハビリテーションにつなげることができる。</p> <p>そこで、本研究の目的は、心臓病の治療で入院した方を対象に、1) 入院中のリハビリテーションの経過と身体・認知機能などの関連、2) 身体・認知機能と退院後の再入院などの関連、3) 身体・認知機能やリハビリテーションの経過と退院後の社会的な状態や生活状況との関連、以上3点を検討することとした。</p>
実施の期間	西暦 2015 年 4 月 1 日より 西暦 2023 年 3 月 31 日まで
研究対象	名古屋掖済会病院で心臓血管疾患の手術・保存療法中に、リハビリテーションが実施された方。